慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	古事記諸本解題(國幣中社 志波彦神社 鹽竈神社編纂)
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1941
Jtitle	史学 Vol.20, No.1 (1941. 7) ,p.178- 178
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19410700-0178

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

書評

古事記諸本解題（國幣中社志波彦神社・鹽竈神社編纂）

民族の一人として生をうけ、その生を全うするためには、民族精神を體得せねばならぬのはいふまでもない。さうしてそれには民族精神の淵源をきはめることが必要であり、そのためには古典の研究が必須條件でなければならぬ。本書はその古典の隨一たる古事記の研究參考のために編纂されたものであつて、(一)古寫本、(二)刊本、(三)註釋書、(四)諸說、(五)雜誌所載諸說、(六)索引の六部に分れ、古今に亙る古事記研究の參考書及び諸說をあげ、參考書には解說を附したものであつて、古事記研究には誠に便利な指針であり、學徒を益するところ大なるものがあるであらう。しかしながら雜誌所載諸說のごときは、ことごとくこれを網羅することは甚だ困難であつて、往々にして脫漏誤謬をきたすのであり、本書においても若干の不備はまぬかれなかつたやうである。例へば評者自身の執筆に關するものだけについて言つても、本書一六二頁に、古事記の撰錄について史學雜誌昭和二年十二月（第三十八編第十二號）とあるけれども、これは史學第六卷第三號（昭和二年九月）のあやまりであり、また一七三頁に、日本神話の地理的考察として、史學第十一卷第三號と歷史教育第七卷第十二號と兩方をあげてゐるけれども、これは前者が正しく、後者は或は『神話學よりみたる日本古代史』（歷史教育第八卷第一號、昭和八年四月）のまちがひではなからうかと思はれる。なほ評者執筆の『古事記論の一節』（川合教授還歷記念論文集昭和六年十二月）のごときも、當然採錄されるべきものと思ふ。もちろんこれらはとるにたらぬ瑕瑾にすぎないであらうけれども、本書の完璧を期する上から補正をねがつてやまない。（松本芳夫）

日本歌學大系（佐々木信綱編・文明社出版）

特に『和歌體十種』について

歌學は、その初に當つては、支那の詩學の影響を受けて起つたものであるけれども、その研究の對象とする歌が、我が國特有のものであるに由り、遂に我が國純粹の學問として發達するに至つた。日本の人々が、歌を通じて、文學を如何に觀、如何に感じたかは、歌學の書物に由つて知ることが出來る。歌學があつて、始めて我が國の人々が、一切の事物に對して、その觀方や感じ方を學んだとも云へる。例へば、幽玄とか風情とかいふやうな美的意識を表す言葉は、歌學の上に起つた言葉であつた。かやうに歌學は、我が國人の文學的生活の記錄ともいふべきものである。今その大系の刊行せられるに至つたのは、寧遲かつた次第である。ひとり歌を愛好する者のみならず、我が國の精神思想の上に思を寄せる者にとつても、必讀の書といふべきであらう。

以上は「日本歌學大系」によせられた武田祐吉博士の推薦の辭